

ご存知ですか!? 『感震ブレーカー』 電気火災対策には効果的です!!



お知らせ

地震の時、自動で電気を遮断できる
感震ブレーカーをつけましょう

地震による火災の過半数は 電気が原因という事実

白熱灯の落下により出火

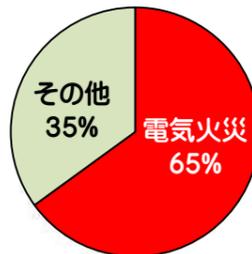
電気コードの断線等より出火



東日本大震災における本震による火災全111件のうち、原因が特定されたものが108件。そのうち過半数が電気関係の出火でした。

地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災のことです。

東日本大震災における火災の発生原因



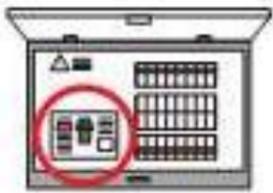
※日本火災学会調査(2014)

電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

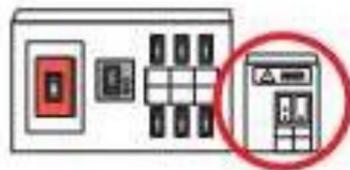
感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

主な感震ブレーカーの種類

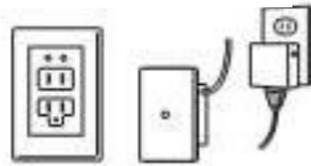
分電盤タイプ(内蔵型)



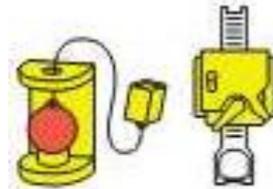
分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ



感震ブレーカー設置の留意点

製品ごとの特徴・留意点を踏まえ、適切に選びましょう!

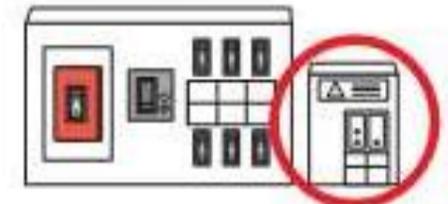
分電盤タイプ(内蔵型) ※電気工事が必要

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。



分電盤タイプ(後付型) ※電気工事が必要

分電盤に感震機能を外付けするタイプで、センサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。



コンセントタイプ

コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。

〈埋込型〉

※電気工事が必要



〈タップ型〉



※電気工事不要

簡易タイプ

※電気工事不要

パネの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します。

〈おもり玉式〉



〈パネ式〉

感震装置のはたらき(分電盤タイプの場合)

基本動作

地震探知後、3分が経過すると、主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。



地震探知機後、3分以内に停電が発生した場合

復電直後に主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。

感震ブレーカーの設定に際しては、

急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組む必要があります。

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
 - 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。
- ※感震ブレーカーの設置に関わらず、地震時やその他の自然災害時にも大規模な停電が発生するおそれがあることから、平時から停電対策に取り組みましょう。

地震対策等と合わせて取り組むとさらに効果的です。

- 避難路の確保等のために、建物の耐震化や家具の転倒防止等に取り組みましょう。
- 復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認を行ってください。
- 仮に、復電後、焦げたような臭いを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度、安全確認を行い、原因がわからない場合には電気の使用を見合わせる必要があります。
- 定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品等の交換を行いましょ。

大津市消防局 予防課 TEL077-525-9902